

ひょうご基幹道路あり方検討委員会（第3回委員会） 議事要旨

1. 日 時 平成29年12月27日（水）10:00～11:30

2. 場 所 兵庫県民会館 7階 亀

3. 出席者（◎委員長）

[委 員]	◎角野 幸博	関西学院大学教授
	宇野 伸宏	京都大学大学院教授
	小池 淳司	神戸大学大学院教授
	今西 珠美	流通科学大学教授
	宇田川 真之	人と防災未来センター研究主幹
	中林 志郎	兵庫県商工会議所連合会専務理事
	志智 宣夫	兵庫県商工会連合会会長
	糟谷 昌俊	兵庫県県土整備部長
[オブザーバ]	橋本 雅道	国土交通省近畿地方整備局道路部長

4. 議 事 （1）意見聴取結果について （2）あり方素案について

5. 議事概要＜委員からの主な意見等＞

（あり方素案について）

- ・第7章（基幹道路ネットワークの役割と分類）は、記載する順序を第2章（目標年次と基幹道路の定義）の後にするなど、工夫した方がわかりやすい。
- ・「国土のグランドデザイン2050」は国土づくりの将来の考え方を示すものであり、「あり方」の中に記載すべき。
- ・概要版の播磨地域の政策目標については、山崎断層がある地域であり、災害についても記載しておくべき。
- ・「賢く使う方策」について、アクセス強化から一步踏み込んで、ETC2.0を活用した一時退出による道の駅の利用など、既存施設等との連携についても触れておくべき。
- ・「2車線区間対策」について、「暫定2車線区間の安全対策を優先した上で、ネットワークの完成を急ぐ」旨の表現とすべき。
- ・「老朽化対策」について、2050年には、既に全国的に道路の老朽化が進行した状況であり、老朽化対策に必要な財源の確保をしっかりと記載すべき。
- ・兵庫県は日本海と太平洋の両方に面し、空港・港湾も複数あるなど、多様性に富んだ地域であり、老朽化対策について、安全性の向上とともに、県土の多様性に応じた新技術の開発と活用に取り組むことは、本県の当該分野の産業育成にもつながると期待される。
- ・道路はつくることが目的ではなく、いかに活用するかが重要。地域活性化に必要な道路でも、現時点の交通需要が小さく必要性を十分説明できない場合は、地域の成長戦略と道路事業の一体化により、道路を有効に活用する方策の立案を検討すべき。
- ・「観光振興」については、長大橋など新しいランドマークをつくるということではなく、今あるもの、できたものがすばらしいので活用するという。また、「訪日外国人旅行者」は「国籍を問わず全ての人々」などの方が適切。
- ・「観光振興」については、道の駅の活用に着目した記載とするべき。

(構想路線について)

- ・構想路線は、必要性が顕在化しつつあるものと将来に向けたものがあり、分類してもよいのではないか。
- ・構想路線は、幅広く、目標を高く持つておくべき。
- ・構想路線①について、政策目標にもよるが、神戸空港のアクセス強化を考えるなら、南端は、大阪湾岸西伸部ではなく、神戸空港まで延伸すべき。
- ・構想路線①について、2050年には、自動運転が一般化し、バスターミナルや駐車場が不要になるとの議論もある。鉄道や空港等と基幹道路の接続は積極的に考えるべき。
- ・50年経っても阪神高速3号、5号は東西間の中心の経路になる。この路線の賢い使い方を促進するうえでも構想路線①②は重要。
- ・構想路線④について、将来は交通のシームレスが非常に重要であり、大きな関西圏のベイエリアを考えるなら、紀淡海峡と既存の基幹道路のネットワークにより、物流の生産性を上げる仕組みが現実的。
- ・構想路線⑨について、交通量を考えると基幹道路の整備は難しいと思うが、道路密度の薄い地域であり、リダンダンシー確保が期待できる区間である。

(その他)

- ・「問題解決型」を「地域基幹型」に変更する事務局提案は、異議なく了承。
- ・第3回委員会での意見を踏まえた「あり方案」の修正は、委員長に一任。